



2009年3月期 通期決算説明会資料

2009年4月28日

2009年3月期 通期実績(連結)

単位:百万円

	実績				当初計画		前期
			上期	下期			
売上高	141,611	100.0%	69,575	72,036	152,000	100.0%	150,789
売上原価	106,727	75.4%	52,834	53,892			112,938
売上総利益	34,884	24.6%	16,740	18,143			37,851
販管費	31,318	22.1%	15,739	15,579			32,717
営業利益	3,565	2.5%	1,001	2,564	6,600	4.3%	5,133
経常利益	4,062	2.9%	1,487	2,575	7,000	4.6%	5,951
税金等調整前 当期純利益	▲ 1,158	—	48	▲ 1,206	—	—	1,821
当期純利益	▲ 5,205	—	▲ 1,854	▲ 3,351	3,000	2.0%	▲ 2,598

セグメント別事業実績

	実績 単位: 百万円		
		上期	下期
売上高			
出版	71,158	33,983	37,174
映像	33,919	17,637	16,281
クロスメディア	26,266	13,307	12,958
その他	10,267	4,646	5,620
売上高合計	141,611	69,575	72,036
営業利益			
出版	5,610	1,724	3,886
映像	▲ 1,108	▲ 478	▲ 629
クロスメディア	▲ 22	▲ 61	38
その他	118	369	▲ 250
全社	▲ 1,032	▲ 551	▲ 481
営業利益合計	3,565	1,001	2,564

2009年3月期 角川グループ トピックス

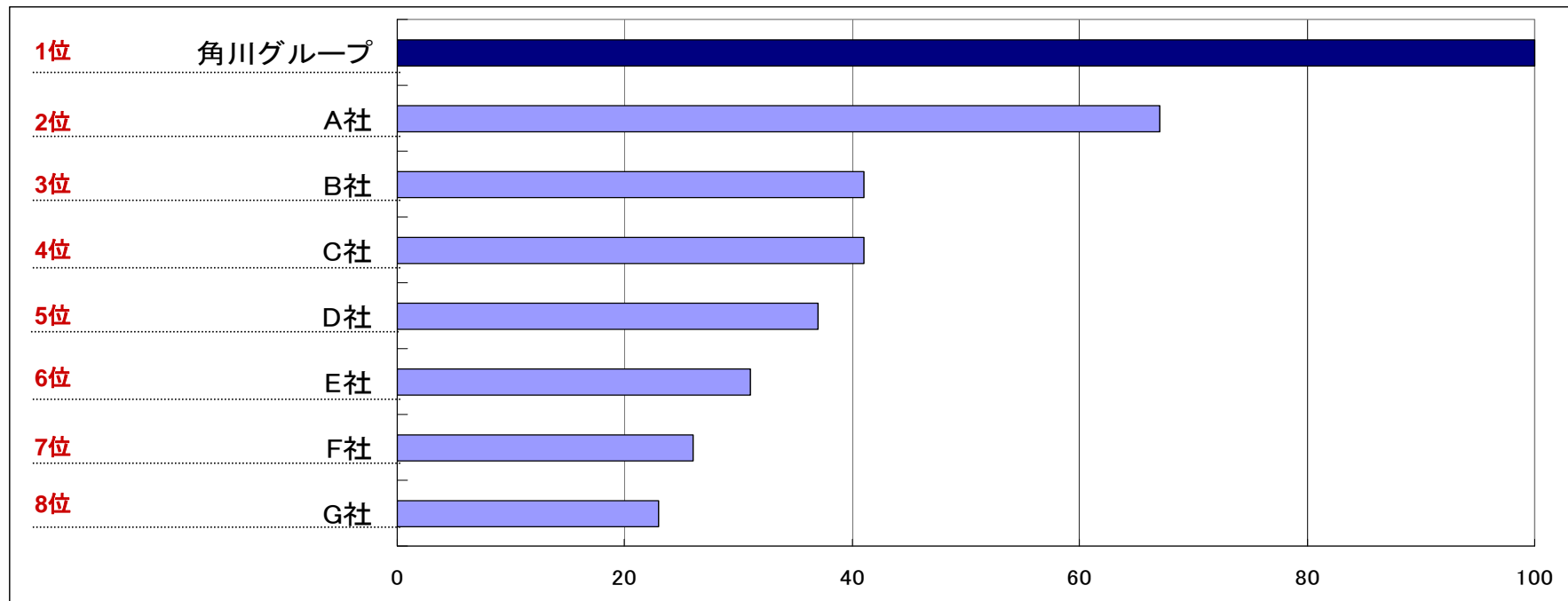
- 角川グループの書籍販売が業界No.1に
- 角川グループの文庫販売が業界No.1に
- 角川グループのコミックス販売が7年連続増加
- 映画「ドロップ」が興収20億円に迫る大ヒット
- 雑誌ザテレビジョンシリーズの健闘

2009年3月期 通期実績 出版事業

◆「書籍」販売が業界No.1に

角川グループと他社比較（2008.4～2009.2）

単位：%



※角川グループ全体の書籍売上高を100としています。

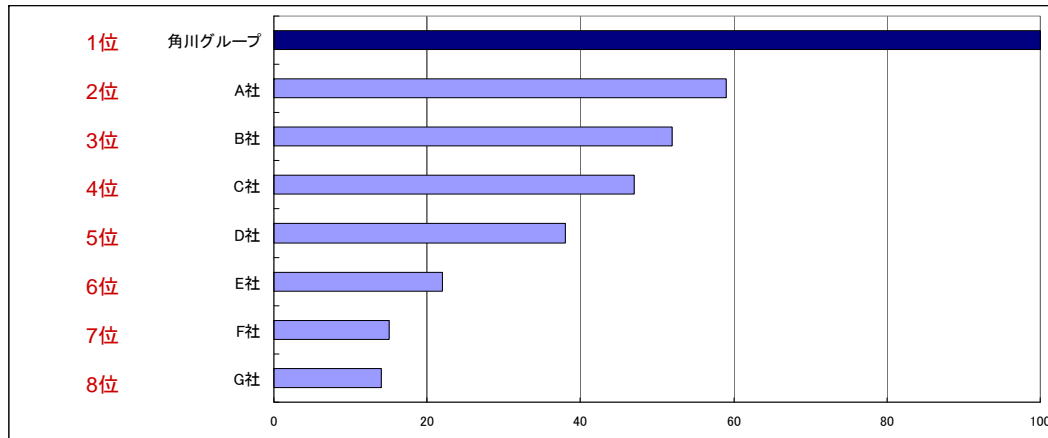
※大手販売会社取引データより作成

2009年3月期 通期実績 出版事業

◆「文庫」販売が業界No.1に

角川グループと他社比較 (2008.4~2009.2)

単位: %



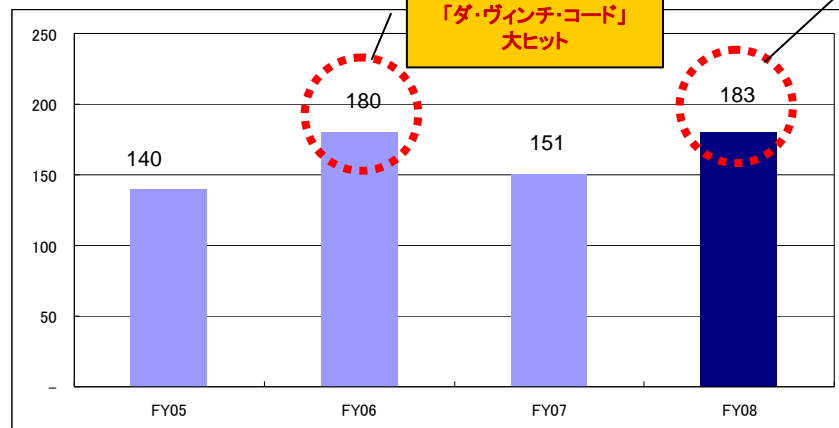
※角川グループ全体の書籍売上高を100としています。
 ※大手販売会社取引データより作成

【2009年3月期の主な文庫作品】



角川グループ

単位: 億円



角川文庫60周年、各社ライトノベル周年企画の成功

ポイント

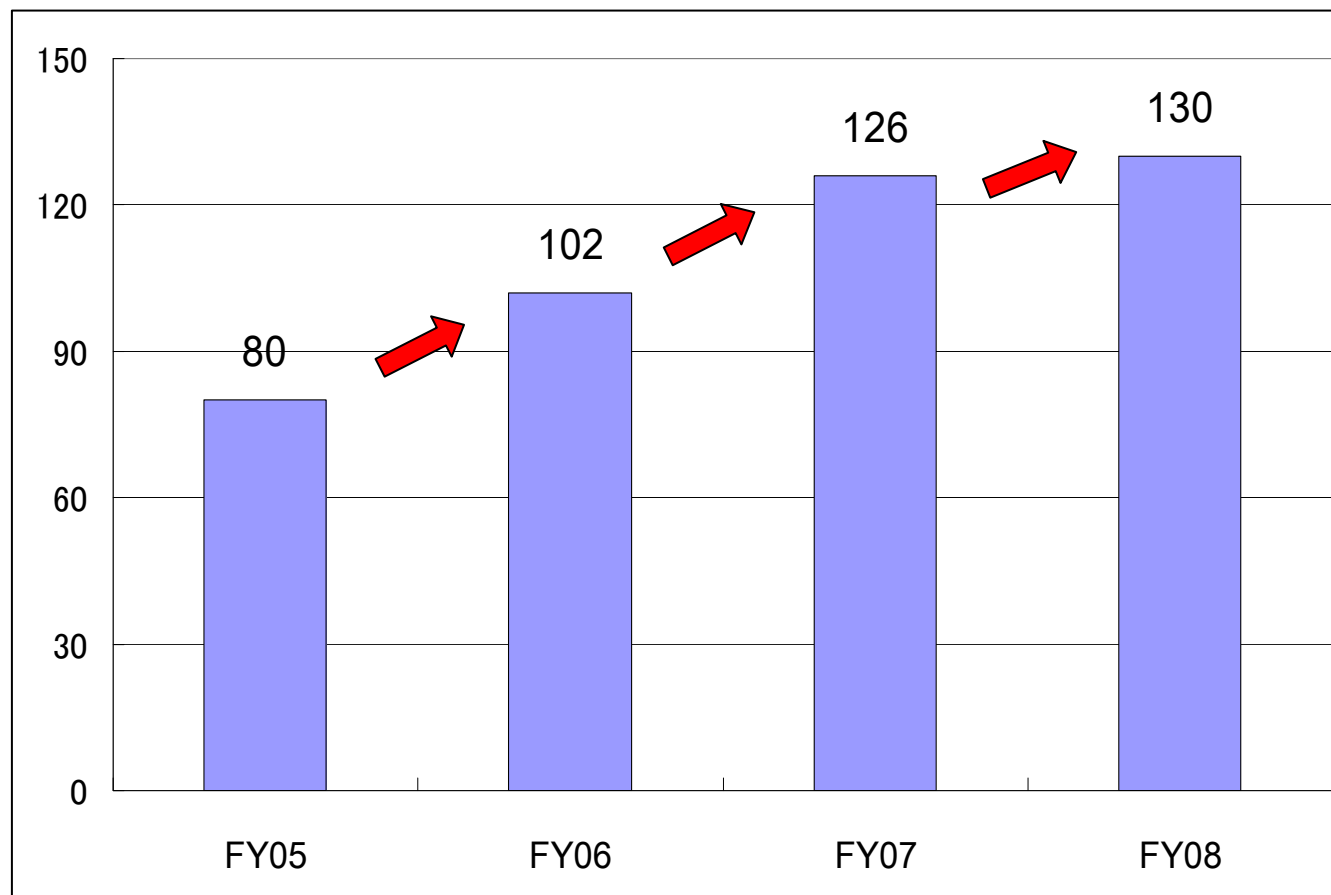
- 角川グループが文庫販売業界No.1に
- 「ダ・ヴィンチ・コード」ヒットの年を超える売上記録
- 角川文庫60周年をはじめ、グループ各社の周年企画が成功

2009年3月期 通期実績 出版事業

◆「コミックス」販売7年連続伸長

角川グループコミック販売総額

単位：億円



ポイント

- コミック市場が前年費4.9%減と落ち込むなか、前期比3.2%上昇し、7年連続で販売実績を拡大
- 現場の声を反映し、読者の年齢や幅広いニーズにあった展開が功を奏す

2009年3月期 通期実績 映像・クロスメディア事業

◆主な業績貢献作品【映像】

【映画興収】

- ▶「イーグル・アイ」 12億7000万円
10月18日公開
- ▶「禪」 4億4000万円
1月10日公開
- ▶「旭山動物園物語」 8億4200万円
2月7日公開
- ▶「ドロップ」 上映中 8億2200万円
3月20日公開 (4/20現在 興収15億円突破)

- 下期に入り映画が好調。
「ドロップ」興収予算を大きく上回る

【主要DVD作品】



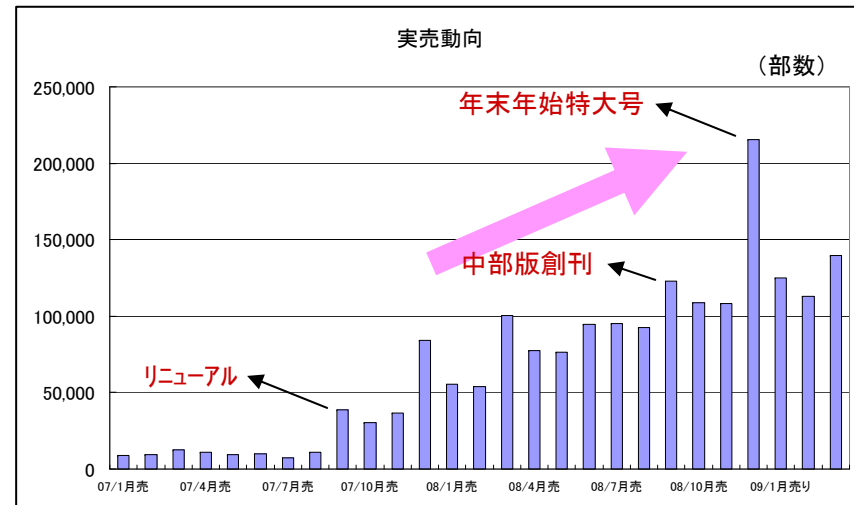
- TVドラマ、アニメの定番作品が好調
- 実写ではDW2作品が貢献

◆主な業績貢献作品【クロスメディア】

- 「ザテレビジョン」シリーズは販売収入が前期比並みと貢献。広告収入減少の影響が大きい情報雑誌のなかで堅調に推移



月刊ザハイビジョン 売行動向



当期総括 To be a “mega content provider”

1. 出版事業：高い収益性をキープ

- 角川文庫60周年、スニーカー文庫20周年、ファンタジア文庫20周年、電撃文庫15周年、ファミ通文庫10周年をはじめとした、周年事業の成功
- コミックス、BL、キッズ向けなどグループにとって成長余地のある分野への投資
- アスキー・メディアワークスのスタートにより、**販管費削減とメディアミックスの好調**

通期での進捗

角川グループでの文庫販売が業界No.1に

角川グループのコミックス販売が前期比で増加。7年連続で売上成長を達成

営業利益前年同期比約10億円プラス(前期比232%)

2. 映画/映像事業：収益性の改善

- シネコン事業の抜本的建て直し
- 劇場映画ラインナップ、**チェーン展開の強化**
- 他社の追随を許さないアニメ・メディアミックスの更なる強化

中期的ビジョンに立ち事業再編にともなう収益改善に着手

角川シネマチェーンに映画ラインナップを安定供給

3. クロスメディア事業：コンテンツ付加価値の最大化

- 業務の集約やコスト削減による収益力の回復
- YouTube/Google, NTTドコモとの提携による新事業の具現化**
- 顧客連動型のトータルダイナミックサービスの実現
- 映像配信事業の立ち上げ**

ザテレビジョンとクロスメディアの合併による事業再編

YouTubeを使ってタカラトミー商品のキャンペーン実施

ムービーゲートサービス開始